

海外の話題

香港は日本ブーム、だが・・・

農林中央金庫 香港駐在員事務所長 落合 顕久

香港は、第3次（？）日本ブーム到来と言われている。2013年の香港人の日本への旅行者は昨年比ほぼ倍増の70万人に達すると見込まれている。これは香港人口の1割にあたる驚異的な数である。円安や日本入国ビザの免除が影響しているのだろうが、そもそも日本に魅力を感じているからであって、我々日本人にはうれしい話である。

目的地は多様化しており、日本の空港でレンタカーを借りて、自由に各地を巡る個人旅行者が増えているようだ。旅行代理店によると、今年は福岡空港で車を借りて九州各地のひなびた温泉宿で、地元の素材を使った和食を堪能し、ゆっくりと温泉に浸るのが流行っているらしい。

日本の観光情報は豊富にある。旅行ガイドブックは「九州」「北海道」「東京」のように地域毎で一冊の本として売られ、どの本も的確に観光スポットを選択し、広東語の横には日本語（ひらがな）が並記され、旅先でも何とかコミュニケーションが取れるように工夫してある。テレビは「ジャパNAVI」など、香港人タレントが日本の田舎を紹介する旅行番組を毎週放送しており、日本人が見ても魅力的な内容になっている。

このブームは意外と裾野が広く、いわゆる富裕層に留まらず、中流層にも広がっている。代表例は日本料理店と日本のテレビ番組の人気である。香港にある日本料理店の数は2012年で1,160店、中華を除く外国食レストランでトップ（JETRO資料による）、2013年には1,200店を超えたと言われている。とりわけ回転寿司、ラーメン、とんかつ、カレー、居酒屋など日系外食チェーンの出店が相次いでいる。1千～2千円程度で食事が出るので、若者中心に人気を集めており、今年7月にオープンした博多ラーメンの店は初日4時間待ち、今でも1時間待ちの行列が出来ているようだ。テレビでは、頻繁に日本のドラマやバラエティ番組を放送しており、「半沢直樹」はこちらでも話題を呼び、当地の新聞の一面に「倍返し」特集が組まれた程である。

しかし、ブームだからと言って、彼らが盲目的に日本に憧れ、受入れていると捉えるべきではない。数年前に日本の農業問題を巡るテレビ討論番組で「識者」が、「日本の農産物は品質が良いから、幾ら高額でもアジアの富裕層は購入するのだ」と述べていたが、当地で暮らしていると違和感を感じる。高級スーパー等流通関係者に聞くと、日本と同程度の品質の他国産がより安く売られると、日本産農産物は売れ残るのである。前述の日系外食チェーン店も、価格設定やメニュー・味付けに工夫を凝らして香港人に受けるように研究しているとのこと。基本はやはり「良いものを、より安く」。

英国植民地時代から、自由貿易の国で育ってきた国民だけに、評価する目は厳しいとおいた方がよさそうである。